

# 若竹

第八十五号

令和7年度

神道青年四国地区協議会 顧問会



## 愛媛県神道青年会

事務局 〒793-0072

愛媛県西条市氷見乙1345-1 石岡神社 内

TEL 0897-57-9990 FAX 0897-57-7526

URL <https://www.ehimeshinsei.net/>



愛媛県神道青年会

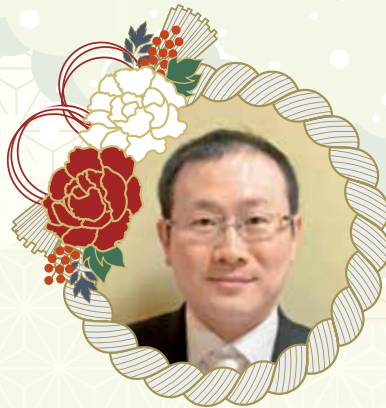
検索



## 新年の御挨拶

### 愛媛県神道青年会

会長 曾我部洋輔



先ず以って、新春を寿ぎ謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄をお慶び申し上げると共に、県内各社のご発展を心よりお祈り申し上げます。

学生の頃には一年は長いと思っていましたが、齢を重ねる毎に一年があつという間に過ぎていき、光陰矢の如し、とはこのことなのかと一日一日を大切に過ごしてい

なくてはと感じている次第です。

令和七年は能登半島地震からの復興、大阪万博の開催、マイナンバーカードのスマートフォン搭載等の技術的革新、政界では日本初の女性総理大臣の誕生、自民党連立政権解消、維新の会との新たな連立政権樹立等これまでに無かったものが生まれ、長期間続いていったものが無くなり、新たなものが誕生するといった変革が多く、巳年を象徴する変化の多い一年でした。本年午年はエネルギーに満ちた動きの多い年といわれています。変化によって生まれた力を良い方向へ動かす年となることを願うばかりです。

本会におきましては、昨年通常事業の中で大東亜戦争終戦八十周年の年に沖繩平和祈念公園愛媛の塔にて戦没者慰霊祭を斎行でき、英霊達の御霊をお慰めできたことを嬉しく思います。来年令和九年には愛媛県神道青年会再発足五十五周年の年を迎えます。それに伴い本年は通常事業と共に周年実行委員会を設立し、周年事業を考えることとなります。役員、会員の皆様にはご負担をおかけすることとなりますが何卒宜し

くお願いします。

四国地区協議会におきましては創立三十周年記念式典が行われ、愛媛県からも大勢ご参加いただき誠にありがとうございます。本年も記念事業が四月と夏頃に予定されていますので、ぜひご参加下さい。

とある先輩の言葉に、「自分の本業は何なのだろうと今更判りきっていることなのに考え込んでしまう。本務本業は「先神事」でなければならぬ聖職神職である。昨今の自分は全くの事務屋になりきっていて神職ではない様な気がして恥ずかしい思いに包まれてしまった。」とあります。今の自分がまさにこの状況です。一日中パソコンに向かいカタカタと音を立てる事務屋になっています。今年は事務屋から抜け出し、神職とは何か、を今一度考え、「できること」を続けることも大事ですが、「できるようなること」が多い一年にしていきたいです。

本年もどうか青年会の活動を見守りいただき、皆様方にご指導ご鞭撻をいただければ幸いです。

あけましておめでとうございます。新しく挑戦していきましょう。



## 大東亜戦争終戦八十周年愛媛県人戦没者慰霊祭



【報告者】

愛媛県神道青年会 会長  
西条市 石鎚神社  
権欄宜 曾我部洋輔

去る六月十七日から十九日の三日間の行程にて大東亜戦争終戦八十周年愛媛県人戦没者慰霊祭を斎行しました。

六月十七日、飛行機にて松山空港より沖縄空港へ移動、レンタカーにて沖縄県護国神社を訪れ正式参拝をさせていただき、その後慰霊祭で使用させていただいた祭具をお借りして平和祈念公園に移動、斎場を確認して初日は終了。



十八日、雲一つ無い快晴の中、朝九時に平和祈念公園愛媛の塔に到着、平和祈念財団よりお借りしたテント、椅子をはじめ斎場を熱中症対策の為水分補給と休憩を挟みながら準備、斎場舗設後習礼を行い全体の流れを確認、昼食を摂り、再度斎場と流れを確認して着装、愛媛県神社庁長をはじめ役員、職員の皆様が到着後祭典を斎行しま



した。この頃には雲が出てきて少し涼しい中での祭典となりました。

祭典は滞ることなく執り行われ、英霊たちのご平安を感謝を申し上げるとともに御霊のご平安をお祈り申し上げます。

十九日は旧日本海軍によって掘られたほぼ当時のままの壕を見ることが出来る旧海軍司令部壕を見学、約三千人の将兵が五ヶ月かけ、手掘りにて掘られた深さ二十メー



トル長さ四百五十メートルの壕には手榴弾の弾痕、司令長官が壁に書き残した文字などが残されており、遺留品も展示されていて、戦争の厳しさや平和のありがたさを改めて感じました。



終戦より八十年が経過し、戦争を経験した方々、戦後の厳しい時代を過ごした方々も少なくなりつつある今の時代に、ありのままを伝えることは難しいかもしれません。ですが、日本を守る為に命を捧げた方々がいる事実が変わることはありません。今の豊かな日本があるその礎になられた方々を時々でいいので想っていたら幸いです。

またとない経験となりました。是非現地に赴いてください。



移動、準備を含め三日間沖繩に行かせていただき、同行してくれた青年会の皆様、田窪先輩、参列いただきました愛媛県神社庁役員、職員の皆様、祭具をお貸しいただきました沖縄県護国神社様、誠にありがとうございました。感謝申し上げますと共にご報告とさせていただきます。

### 大東亜戦争終戦八十周年

愛媛県人戦没者慰霊祭 祭詞

日本南の最果敵 志夜 暑 左 身 手 焦 熱 沖 縄 県 糸 満 市 摩 文  
仁 乃 平 和 祈 念 公 園 愛 媛 之 塔 乃 御 前 祓 清 注 連 綿 引  
廻 齋 庭 坐 世 奉 留 大 東 亜 乃 大 戦 争 乃 御 盾 愛 媛 県  
戦 場 赴 赴 華 散 二 〇 七 七 柱 乃 命 等 又 天 翔 國 翔 里  
愛 媛 之 塔 招 奉 命 等 乃 御 前 愛 媛 県 神 道 青 年 会 会  
長 曾 我 部 洋 輔 眞 敬 比 恐 美 母 白 左 乃 昭 和 御 代 十 二 年  
始 里 志 大 東 亜 戦 争 波 日 追 每 里 海 里 敵 艦 乃 大 砲 空 与  
敵 機 機 銃 雨 乃 如 降 注 戰 火 日 本 近 受 傷 乃 状  
敵 志 久 成 行 乃 隨 祖 國 乃 為 家 族 乃 為 命 手 捧 宜 國 礎 登  
成 命 等 幾 星 霜 重 手 忘 禮 留 依 非 受  
年 月 經 過 令 和 御 代 八 年 戰 終 氏 里 八 十 年 平 迎 禮 慶 殊 更  
乃 御 盡 感 謝 乃 御 心 捧 奉 里 慰 奉 良 奉 登 大 前 乃 愛 媛 県 神 道  
来 多 留 郷 土 乃 御 食 御 酒 山 野 乃 味 物 手 捧 奉 愛 媛 県 神 道  
青 年 会 役 員 先 輩 愛 媛 県 神 道 社 庁 長 三 輪 田 泰 生 手 始  
米 愛 媛 県 社 庁 乃 重 役 所 乃 神 職 等 登 仕 奉 人 等 又 神 道  
政 治 連 盟 愛 媛 県 本 部 本 部 長 曾 我 部 昭 一 郎 賀 御 前  
乃 参 集 命 等 乃 御 功 績 稱 奉 泰 奉 泰 奉 伏 志 拝 奉 状  
手 御 心 穩 乃 閑 食 給 比 今 良 里 先 命 等 乃 御 盡 愛 媛 県 神 道  
鎮 坐 志 夜 日 本 朝 風 乃 海 乃 如 波 立 奴 奴 國 國 守 導 依  
給 比 御 遺 族 波 申 須 母 更 奈 里 乃 上 至 麻 伝 敵 乃 御 盡 幸 門 給  
閉 恐 美 母 白 須



これからも次世代へ繋いでいけるように頑張っていきましょう。



# 愛媛県護國神社 「臨時大祭・秋季慰霊大祭」奉仕

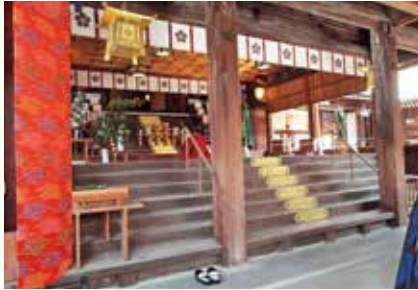


【報告者】

愛媛県神道青年会 理事  
西条市 風伯神社  
宮司 花谷 空

去る令和七年十月十日、松山市に鎮座する愛媛県護國神社において「臨時大祭・秋季慰霊大祭」が斎行され、当会からは理事である私 花谷と佐藤肇国会員の二名が辛櫃白丁として奉仕いたしました。

当日は午前八時三十分には斎館へ参集し、額田宮司への挨拶、祭典の次第説明を受けた後、白衣に改服しました。午前十時、祭員の先導のもと参進が始まり、白丁二名は辛櫃に納められた幣帛料を奉じて拝殿前へと進みました。修祓を受けた後、拝殿・幣殿へ昇殿し、所定の位置に辛櫃を安置して奉仕を終えました。



境内には多くの参列者が訪れ、杖をつきながら、あるいは車イスを押されながら参道を進むご遺族のお姿が静かな空気の中に深く印象に残りました。先の大戦から八十年余りが過ぎた今なお、戦没者を偲ぶ思いが強く受け継がれていることを改めて感じさせる光景でした。



直会では、崇敬会会長の竹内誠治氏より「戦後生まれが国民の大半を占め、遺族会の高齢化が進む中で、追悼の心をどのように次代へつないでいくかが課題である」との言葉がありました。戦後世代が多くを占める現代において、慰霊祭に若い世代の姿が少ない現状は、私たちににとっても重い問いかけです。

慰霊とは、過去を哀悼する行為にとどまらず、私たちが今をどう生き、どのように未来へ責任を果たしていくかを見つめ直す営みでもあります。先人の尊い犠牲と、今日の平和の礎に思いを致しつつ、次代に正しく伝えていくことが私たちに課せられた務めであると感じました。

今回の奉仕を通じて、英霊への感謝と平和への祈りを胸に、地域と国の安寧を願う心を新たにいたしました。今後も神職として、また地域に生きる一人として、追悼の精神を絶やさず、次世代への橋渡しに努めてまいります。



大変貴重な経験となりました。



## 神道青年四国地区協議会 第三十一回定例総会並びに 設立三十周年記念式典・記念講演・祝賀会

### 【報告者】

愛媛県神道青年会 副会長  
西条市 石岡神社  
欄 宜 越智 仁美



去る九月四日(木)、大型台風が接近する厳しい天候の中、神道青年四国地区協議会は記念すべき一日を迎えました。十三時十五分より、第三十一回定例総会が執り行われ、前年度の事業報告や会計報告、新年度の活動計画案などが審議され、全ての議案が滞りなく可決されました。

午後三時から、会の設立三十周年を祝う記念式典が開催されました。この歴史的な節目には、神道青年全国協議会会長をはじめ、総勢二十五名ものご来賓がご臨席され、式典に一層の厳かさを加えました。長きにわたり会の発展に尽力された歴代会長への表彰も行われ、特に第十代以降の四名の会長が顕彰されました。愛媛県からは、第十三代会長を務められた田窪大朗様が表彰を受けられ、その功績が称えられました。式典後には記念講演として、高知県立歴史民俗資料館の学芸員である梅野光興氏を

お招きし、「いざなぎ流と土佐の神祭り」というテーマで貴重なお話を伺いました。梅野氏によれば、「いざなぎ流」は高知県香美郡物部村およびその周辺の山村に伝わる独特の祭儀・祈禱法で、「太夫(たゆう)」と呼ばれる伝承者が地域の神祭りなどを担ってきたとのこと。陰陽道、修験道、密教、巫女信仰、神道など、多様な信仰が混交して形成されたものであり、神前に捧げる御幣一つとっても、太夫によって形が様々であるという解説は、その奥深さを示していました。

また、いざなぎ流の神楽は一般的な民族芸能としての舞とは異なり、太夫たちが円座になって神楽調子で唱文を唱える形式であると紹介されました。この神楽において、お米は単なる道具ではなく「必須アイテム」であり、神がかりの儀式ではお米を盛ったへぎ、数珠、祓い幣を左手に、錫杖を右手に持って行われるという具体的な説明は、その神秘性を強く印象付けました。地域ごとの特性を活かした儀式や、多種多様な祭具、唱文に触れ、限られた時間ではありましたが、日本の信仰文化の豊かさ

深さを改めて認識し、大変勉強になりました。

記念講演の後には祝賀会が催され、清興として「津野山古式神楽」が奉納されました。その迫力ある舞と音色に会場は魅了され、幸いにも神楽の方々と同じ席で直接お話を聞く機会にも恵まれました。普段なかなか知ることのできない神楽の背景や伝承について伺うことができ、大変有意義な交流の場となりました。参加者各々が親睦を深め、会の設立三十周年という大きな節目にふさわしい、心温まる素晴らしい一日となりました。



他県の会員と親睦を深めることができました。

## 参拝啓発ポスター 発送事業



【報告者】  
愛媛県神道青年会 理事  
松山市 多賀神社  
欄 宜 中西 由大

去る令和七年九月十日(水)愛媛県神社庁に於いて、令和八年参拝啓発ポスターの発送作業を行いました。お忙しい中ご協力賜りました皆様のおかげもあり、予定していた工程を一日で終えることができました。ありがとうございました。この場をお借りしましてご協力いただいた皆様へ厚く御礼を申し上げます。

参拝啓発ポスター発送作業中は、和やかな雰囲気雑談をしながら作業を進める時であれば、集中をして無言で黙々と作業を進める時もあり、作業は順調に進んでいきました。私自身が初めてポスターの発送作業に携わらせていただきましたので、こんな膨大な量を一日で纏め終えることができるのかと不安になっていましたが、野口監事、玉井監事をはじめ経験のある先輩方の丁寧な指導と段取りのおかげで、無事一

日で終わることができ、安堵いたしました。今回のポスターも、昨年同様に厄年表・年祝い・七五三・戌の日を掲載しております。御社頭や氏子区域等幅広くご利用いただきまして、このポスターが一人でも多くの方の目に留まり、御祈願をお申し込みされる際の参考になり、参拝啓発の一助となれば幸いに思います。また、アンケート用紙を同封しております。お忙しい時期とは存じておりますが、ご回答をお願いいたします。



令和8年 丙午 皇紀2686年

戌の日(家運)				七五三			
1月	13日、24日	7月	11日、22日	1月	1日	7月	7日
2月	5日、17日	8月	4日、16日、28日	2月	2日	8月	8日
3月	7日、19日、29日	9月	6日、18日、27日	3月	4日	9月	11日
4月	6日、18日、28日	10月	5日、17日、27日	4月	5日	10月	12日
5月	11日、23日	11月	8日、20日、29日	5月	6日	11月	13日
6月	9日、17日、29日	12月	7日、19日、28日	6月	7日	12月	14日

厄年				年祝い			
1月	1日	7月	7日	1月	1日	7月	7日
2月	2日	8月	8日	2月	2日	8月	8日
3月	3日	9月	9日	3月	3日	9月	9日
4月	4日	10月	10日	4月	4日	10月	10日
5月	5日	11月	11日	5月	5日	11月	11日
6月	6日	12月	12日	6月	6日	12月	12日

お参り・ご祈禱は、お近くの氏神様・崇敬神社へご相談ください。

愛媛県神道青年会  
ehime-shinto-junsei



今年も掲げていただきますようよろしくお願いします。



## 秋田県神道青年協議会 創立七十周年記念祝賀会



【報告者】  
愛媛県神道青年会 相談役  
松山市 三津厳島神社  
榎 宜 柳原 永祥

令和七年十月十日、秋田県神道青年協議会の創立七十周年記念祝賀会に出席いたしました。私が愛媛の会長の折に行った再発足四十五周年に当時の会長が出席していただいたご縁があり、節目の佳き日に再び同志と再会できたことを大変嬉しく思います。

会場に到着してまず驚いたのは、約百名にも及ぶ参加者の多さでした。

九月に行われた四国地区の周年行事でも約六十名の参加でしたので、より多くの方々が一堂に会えるこの祝賀会の盛況ぶりに、組織としての結束と発展を感じました。



祝賀会では県内の銘酒が並び、「西馬音内盆踊り」の披露もあり、秋田の伝統文化の深さに感動いたしました。さらに二次会場では地元の名物料理がずらりと並ぶなど、秋田ならではの温かいおもてなしに心が和み、ナマハゲも登場して会場は大いに盛り上がりました。



また県内の神社もご案内していただきました。男鹿市の真山神社を参拝した際には、境内に隣接する男鹿真山伝承館やなまはげ館をご案内いただきました。また、秋田県護国神社にも参拝いたしました。平成の御代替わりの折、過激派による放火により社殿が全焼するという痛ましい被害に遭われたこと、そしてそこから復興の歩みについてお話を伺いました。再び同じ悲劇を繰り返さぬよう、現在では防犯設備を整え、地域と連携しながら護国の誠を護り伝えておられることに深い感銘を受けました。ど

ちらも宮司様自ら丁寧に境内を案内してくださり、学びの多い時間を過ごすとともに、秋田の方々の温かいお人柄に触れることができました。



この度のご縁に心より感謝申し上げますとともに、先人の信念と地域の力、そして神職としての責務を改めて胸に刻む機会となりました。



秋田の地でも交流を深めてきました。



## 第三十一回

## 全国戦歿学徒追悼祭

## 【報告者】

愛媛県神道青年会 監事  
松山市 伊佐爾波神社  
欄 宜 野口 貴令



去る令和七年十月二十一日、戦歿学徒記念 若人の広場公園に於いて第三十一回全国戦歿学徒追悼祭が斎行されました。愛媛県からは私、野口が参加いたしました。例年全国戦歿学徒を追悼する會が主催し、神道青年近畿地区連絡協議会の会員奉仕によって斎行されております。

この会の主軸は神式ながら、途中で仏教者による念仏や、キリスト教徒による聖歌奉唱が行われるなど、宗派を越えた慰霊が行われております。

私も自席にて先の大戦で亡くなられた約二十万人余りの学徒の御霊に追悼の祈りを捧げさせていただきました。

尚、本年は大東亜戦争終戦八十年を迎える為、追悼祭後に兵庫県主催の追悼式典も執り行われましたが、時間の都合上参列出来ませんでしたので、割愛とさせていただきます。



御霊のご平安をお祈り申し上げます。



## 四国地区協議会 顧問会・懇親会



【報告者】  
愛媛県神道青年会 理事  
伊方町 九町八幡神社  
欄宜 菊池 崇史



例年、四国地区持ち回りで執り行われている四国地区協議会主催の顧問会・懇親会が令和七年十二月十日(水)に愛媛県の助格三番町店で実施されました。顧問会には顧問である伊豫豆比古命神社 宮司 長曽我部 昭一郎先輩、八幡神社 欄宜 清家 貞文先輩、白鳥神社 欄宜 猪熊兼高先輩、吹揚神社 宮司 田窪 大朗先輩にお越しいただき叱咤激励の言葉を頂戴いたしました。その後、令和六年度及び七年度の活動報告を各事業担当より報告がありました。



そして満を持して猪熊先輩の号令の下乾杯を執り行いました。  
コロナ禍を経て各単位会においても会員の減少がある中、かなり盛り上がりつつありました。最後の締めめの挨拶は田窪先輩により滞りなく懇親会は締めとなりました。各所属会の隔たりが最初からあったのかわからなくなるほど、意気投合しているように思えました。ここでの縁を大切にしていきたい、今後の励みにしていきたいと思います。



松山の地にて楽しく交流を深めました。



## 趣味人

第十八回

神青会員のオフタイム



愛媛県神道青年会 会員  
松山市 伊豫豆比古神社  
権欄宜 木挽弘基さん

私の趣味は魚釣りです。きっかけは友人に誘われて訪れた海での一日でした。竿や仕掛けに詳しかったわけではなく、ただ波打ち際に座って水面を眺めている時間が、これほど心地よいものだとはその時まで知りませんでした。それ以来、休日には伊方町や宇和島市まで車を走らせ、竿を手に波の音や潮の香りに耳を澄ませるのが楽しみになりました。

釣りの本質は「待つこと」にあると思います。魚がかかるまでの長い沈黙のあいだ、風のそよぎや潮の流れ、海鳥の鳴き声が自然と意識に入り、都会では気づかない細やかな音や匂いが次々と胸に迫ってきます。同じ場所でも潮や風、時間帯によって状況がころころ変わる不確実さに、釣りの難しさ面白さが凝縮されています。焦って仕掛けを変えても思いどおりにならないときが多く、自然のペースに任せることの大切

さを自然から教わるのです。

当然、釣れたときの喜びは格別ですが、釣れない日にも独特の価値があります。帰り道はいつも「一人反省会」と称して車中で一日の出来事を振り返ります。釣れなかった理由を思い巡らせるうちに、水平線に沈む夕陽が目に入り、その光景が意外にも心に深く残ることが多いのです。夕陽は勝ち負けの感情を静かに溶かしてくれて、翌日の工夫や学びへと気持ちを切り替えてくれます。



釣り仲間との時間もまた大切です。釣果を喜び合い、失敗を笑い飛ばしながら共有することで、釣りはより豊かな経験になります。地元の人から教わる釣り場の話や、季節ごとの餌の選び方といった知識の交換は、自分の技術向上にもつながります。時には家族を連れて行き、小さな発見を一緒に喜ぶこともあります。子どもの目に映る海は新鮮で、私自身もその視線によって改めて海の魅力を再確認します。

こうした些細な日常の積み重ねが、私の生活に静かな彩りを与えています。魚釣りは単なる趣味を越え、人生の節目や季節の

記憶と結びつく大切な営みとなりました。今後も変わらず海に足を運び、潮の匂いや波の音を感じながら、ゆつくりと竿を垂れていきたいと思っています。

釣りに必要な技術や道具は時とともに進化しますが、私がこの趣味に求める本質は変わりません。自然を敬い、待つ時間を楽しみ、自分の内面に余白をつくること。忙しい日常の合間に、海辺でゆったりと竿を垂れる時間を持つことを、私は深くありがたく思っています。これからも季節ごとの海へ出かけ、波の呼吸に身を任せながら釣りを続けていきたいと考えています。



会員でも同じ趣味の方もいますので交流を深めましょう。

## 御案内

令和七年度神道青年全国協議会  
「ウェブ研修会」開催要綱

【主題】空間デザインの視点から  
神社の未来を創造する

【日程】令和八年二月二十一日(土・大安)  
午後五時五十分開講  
(開講十五分前までに入室必須)

【会場】ウェブ会議システム「Zoom」を  
利用した遠隔研修

【参加費】一名 千円  
※各単位会事務局とりまとめ

【講師】井上 裕史 先生



(株式会社1221 代表取締役、  
東京藝術大学 特任准教授、  
榊葉神社 欄宜)

## 【申し込み方法】

① 神社本庁総合研究所入所申込書・履歴書  
を郵送(参加者一名につき一枚)  
② 参加申込書(E-xcel)のメール送信  
研修一週間前までにZoom URLと資料  
を送信

【締切】令和八年一月十四日(水・赤口)  
(厳守)

## 【服装・注意事項】

男性…原則スーツ、ネクタイ着用  
女性…それに準ずる服装  
途中退席・作業しながらの受講は不可  
レポート提出必須

(テーマ…主題、字数…原稿用紙一枚半以上)  
修了証は後日送付  
(不要の場合は申込書に記載)  
詳細は愛媛県神道青年会のサークルスクエア  
を参照

## 愛媛県神道青年会 研修会・親睦会

【研修名】紫電改展示館見学と  
ふるさと愛媛の自然

【日程】令和八年三月十六日(月・仏滅)  
午前十時(展示館前に十分前集合)

【会場】研修会…紫電改展示館・西海観光船  
親睦会…なにもわ

【参加費】三千円  
(入館料は無料。昼食費・乗船料等)

【服装】普段着

今回の研修会は会員に限らず、同世代の職員  
やご家族もご参加いただけます。  
参加希望の方は左記QRコードよりお申し込み  
ください。(二月二十日締切)



申し込みはコチラから

## 会員のみなさまへお願い

神社本庁の「月刊若木」、愛媛県神社庁の「愛  
媛県神社庁報」を始めとする各種案内のデジタ  
ル化の推進、さらに迫られる環境保全への対応  
を鑑み、青年会では各種案内等のデジタル化推  
進のツールとして、グループウェアサービス  
「サークルスクエア」を導入しております。今  
後も研修会や各事業の案内をサークルスクエア  
を介したメール等に順次切替を行いたく存じま  
すので、サークルスクエアへの会員登録が済  
みで無い方は、左記QRコードよりご登録をお  
願い申し上げます。

委任状が必要な案内等は引き続き書面にて  
案内いたします。



サークルスクエア  
愛媛県神道青年会  
メンバー登録ページ



是非参加をよろしくお願いいたします。